

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.号外

2011/11/05

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

淡海森林クラブと除伐作業



11/11/05

今年もありがとう
ございました

志賀町のナラ枯れ(11/08/11)

今年の保全作業は、昨年までの湿原の復元作業から「森林の更新」に焦点を当てたものにランクアップしました。「山門水源の森」は、もともと薪炭林で 15 ～ 20 年の周期で皆伐が繰り返されてきました（日本の大部分の森林も同様）。しかし、薪炭の需要が無くなって久しく、山門水源の森では伐採しなくなって 50 年近くが経過しています。その結果 1990 年代からナラ枯れが進行しました。現在では大規模なナラ枯れは峠を越えましたが。このナラ枯れは、今年は、滋賀県の湖西では志賀町木戸～大津市にかけて大規模に発生しました。このナラ枯れは、伐採による森林の更新がなされないためだと考えています。皆伐が無くなったことは、それに止まらず生物多様性の保全に逆行する現象を生み出しています。林床への日射が減少することに



伐採作業



伐採した物をメッシュ外に搬出すると

Photo:HASHIMOTO

より、下層植生が貧弱になり動物（特に昆虫）相が貧弱化します。このことを阻止するために、今年から除伐作業を行うことにしました。

過去の除伐と現在

これまで「山門水源の森」では湿原の周りの何カ所かで除伐作業を行ってきました。



南部湿原南端除伐(06/12/16)

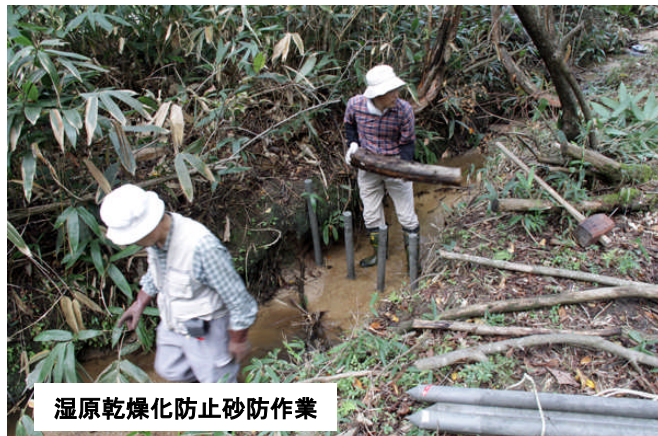


現在の南部湿原南端(11/09/20)

そのうち除伐作業の推移が最も見やすいのは、南部湿原南端斜面です。上の画像は季節が異なりますがこの5年間の遷移の状態がみられます。今回行っている除伐の大きな目的は、コナラをはじめとするいわゆる雑木の「萌芽更新」と下層植生の復元です。南部湿原では、伐採後下層植生や萌芽が鹿の食害に遭っていることも確認出来ています。従って現在除伐を行っている地点には、食害防止ネットを設置することも検討しています。

最近の保全作業

ユキバツバキ分布域の林床整備



湿原乾燥化防止砂防作業

広い森の中、地形・植生・生息生物に合わせた環境保全のための作業量は無尽蔵です。限られた人員と経費で如何に能率的に作業をするかを考えることが要求されます。最近では、「アカガシの森」周辺のユキバツバキ群落内の林床整備（倒木や落枝でユキバツバキが痛めつけられている）や湿原の乾燥化を防止するための砂防作業等々を行いました。年内に観察コース沿いの草刈り・ササユリ食害防止金網の除去等々と続きます。

最近の森の様子

山門集落の大浦川で産卵するビワマス(11/10/21)



時ならぬ秋のギンリョウソウ(11/10/05)

今年も「山門水源の森」を水源とする大浦川にビワマスが遡上して産卵する光景に感激するとともに森の多様性を保全することが、琵琶湖の多様性を保全することにつながることを実感できました。日々の保全作業は苦しいことも多いが、この保全活動が次の世代への現世代の責任と思えば楽しいことも多い。

森全体をお楽しみ下さい

「淡海森林クラブ」のみなさんには、保全活動というしんどい仕事の時のみお世話になっています。これから11月末までは、森が1年中で最も輝くシーズンです。是非仕事抜きで、ご家族ご友人と共にお訪ね下さい。会員一同お待ちしております。お疲れ様でした。